

名古屋駅周辺における歩道上自転車駐車場の整備に関する一考察*

Issues of the Bicycle Parking on the Pavement around Nagoya Station*

舟渡悦夫**・嶋田嘉昭**

By Etsuo FUNAWATASHI**・Yoshiaki SHIMADA**

1. はじめに

(1) 自転車駐車場整備に関する近年の法改正

駅周辺における放置自転車対策として、道路法施行令が改正され、平成17年4月に道路管理者による道路付属物としての自転車駐車場の設置ができるようになり、平成18年11月には、自転車の駐車用器具が道路上の占用物として位置づけられ、道路管理者以外の者による道路上における自転車駐車場の設置ができるようになった。

また、平成20年6月の道路交通法改正により、自転車は車道の左側通行が原則、道路標識で指定された歩道通行の場合は歩行者優先で、車道寄りを徐行とされた。

(2) 歩道上の自転車駐車を扱った文献調査

歩道上の自転車駐車場における交通問題を取り扱った最近の論文には、松岡ら⁹⁾、井上ら¹⁰⁾による福岡市天神地区における利用実態調査に基づき駐車施設の利用特性を詳細に分析したもの、山田ら¹¹⁾による武蔵浦和駅周辺の駐車区画設置に関する諸提案、飯田ら¹²⁾による大阪市天神橋商店街における住民参加型自転車対策の効果分析、和田¹³⁾による全国の自治体を対象とした歩道上駐輪施設の設置実態に関する調査研究、元田ら¹⁴⁾の自転車交通の諸問題について広範な論説等があるが、施設整備の事前事後で駐車実態を比較したものは少ない。

(3) 本研究の位置付けと目的

図-1は、自転車放置に関連した各種指標について、昭和52年の値を100とした指数の推移をみたものである。年度半ばにピークを持ち減少傾向を示すものとして、名古屋市の自転車放置台数があり、近年の指数は180と依然として高い。この推移の形に類似するものとして、全国ならびに名古屋圏の自転車放置台数、全国の駐停車違反件数、交通違反取締件数があるが、いずれもその指数は80以下である。また、一貫して増加傾向を示すものに、自転車事故による死傷者数、自動車の保有台数、自転車

*キーワード：歩道上、自転車駐車場、放置率

**正員、工博、大同工業大学工学部都市環境デザイン学科
(名古屋市南区白水町41、
TEL052-612-5571、FAX052-612-5953)

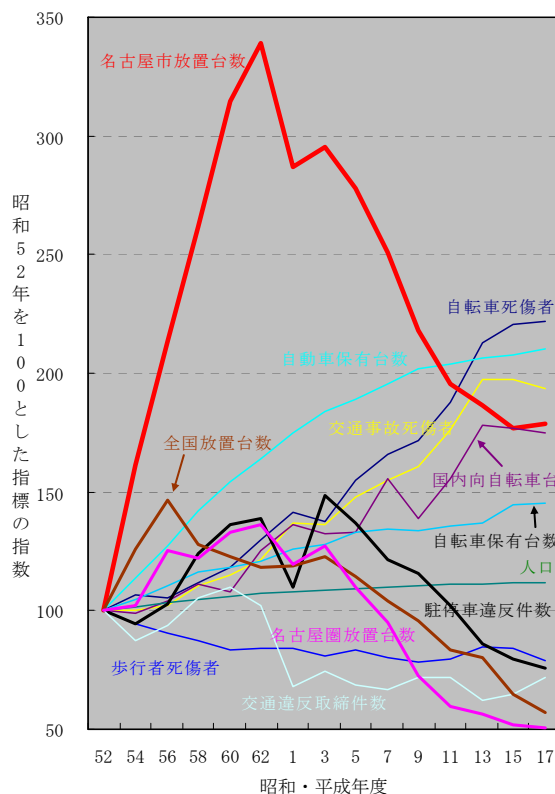


図-1 自転車放置に関する各種指標の指数

(参考文献 1)～(6) のデータを編集)

の保有台数がある。すなわち、自転車ならびに自動車台数の増加が続く中、交通違反などの取締りは相対的に減少の環境化にあり、地下鉄駅出入口など多様な道路占用物が設置された歩道上に自転車駐車場を整備する際には、歩行者の通行を最優先し、適正な歩道空間利用のための工夫が求められている。

そこで、本研究は、今後増加することが予想される都心部の歩道上における自転車駐車場の適正な利用ならびに管理のあり方を検討するために、第1に、名古屋市の自転車駐車実態と課題について既存資料を用いて整理し、次に、平成20年度6月名古屋駅周辺において供用開始された歩道上自転車駐車場駐車について、事前事後の実態調査を実施し、その結果から今後の改善課題を見出し、最後に、放置自転車の撤去、受取りなどの管理方法に関して若干の考察を試みるものである。

2. 名古屋市における自転車駐車場の実態と課題

(1) 自転車放置禁止区域指定と有料駐車場の推進²⁾

図－2に示すように、名古屋市内の自転車放置台数は、昭和62年度の6万4千台をピークとして減少し、平成19年度には3万台となった。これは、昭和63年に施行された「名古屋市自転車等の防止に関する条例」により、放置禁止区域の指定（平成19年度で81駅82箇所）、放置自転車の撤去等の施策が積極的に行われたことによる。なかでも、平成6年度に地下鉄桜通線の沿線駅で有料自転車駐車場が開設され、他路線における地下鉄駅での自転車駐車場の有料化施策が今日まで続いており、平成19年度末で、41駅82箇所が整備されている。

(2) 有料自転車駐車場の利用率

有料自転車駐車場の利用率（計画収容台数に対する駐車総台数の割合）をみると、計画収容台数3万台に対し66％であり、駐車場の構造別利用率では、地上（収容台数に占める割合：49％）が77％、半地下（同4％）が70％、地下（同31％）が39％、立体（同16％）が84％となっている。図－3は、構造別にみた有料自転車駐車場の収容台数と平均利用台数の関係を示したものであり、収容台数の大小に関わらず、地下駐車場の利用率の低さが際立っている。

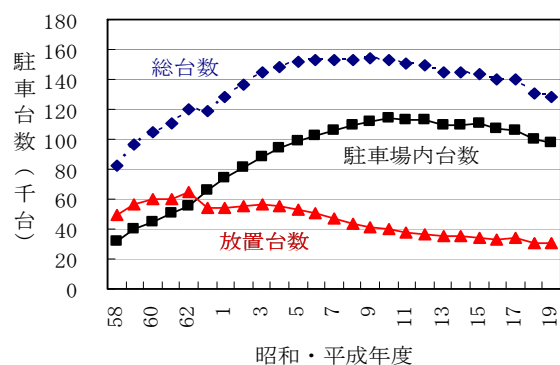
また、図－4より、地下鉄有料化駅の近年の利用率と放置率（駐車総台数に対する放置台数の割合）をみると、金山、御器所、池下駅では利用率が下がり、放置率が上がっており、特に御器所、池下駅での地下駐車場の利用率の低さが問題といえよう。

(3) 名古屋駅周辺の有料自転車駐車場整備の経緯

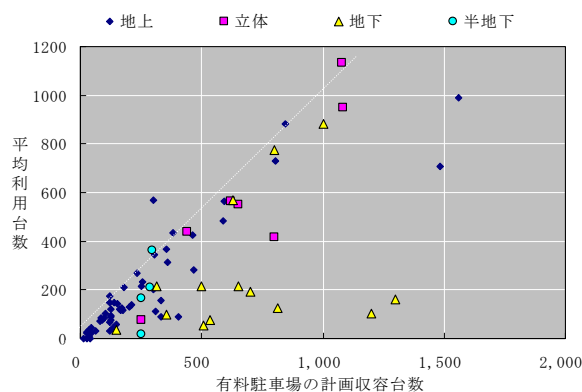
図－5に示すように、名古屋駅周辺における放置自転車台数は3194台と、平成17年度の内閣府調査¹⁾において全国ワースト1となったが、平成19年度では約1割の減少をみた。名古屋駅周辺における自転車駐車場は一部の路外駐車場を除き、歩道上に駐車空間を確保してあるだけであった。それが、平成17年の道路法施行令の一部改正により歩道上での自転車駐車場整備の途が開け、平成19年9月、名古屋市はこれまでの歩道上駐車空間を有料駐車場として整備する方針を打ち出した。

具体的には、歩道上の自転車駐車場整備、ならびにその管理運営を民間事業者へ委託するという方式を採用することになり、公募の後、事業者が決定され、平成20年度5月に供用されることになった。

しかしながら、名古屋駅周辺では近年都市再開発による建設ビルラッシュが続いており、今後、歩行者、自転車の通行量の増大が見込まれ、歩道上の空間利用に関する適正な管理の実施が求められている。

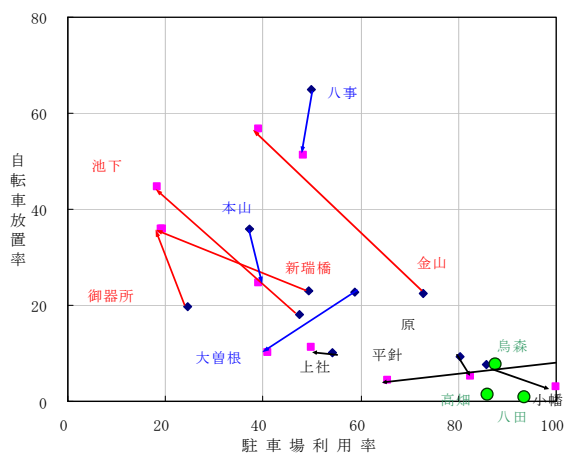


図－2 名古屋市の自転車放置台数等の推移



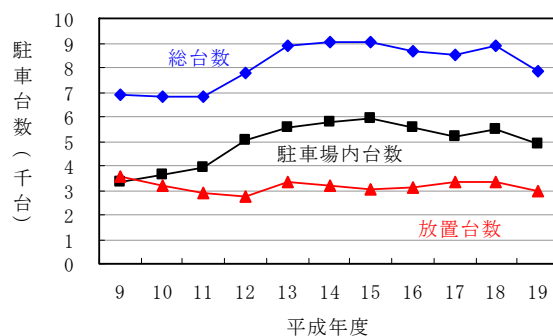
図－3 有料駐車場の利用状況（平成18年度末）

（参考文献 2）、3）のデータを編集）



図－4 地下鉄駐車場有料化駅の放置率等の推移

（有料化直後と平成18年度、参考文献 4）を編集）



図－5 名古屋駅の自転車放置台数等の推移

3. 歩道上における自転車駐車の実態調査

(1) 実態調査の概要

名古屋駅前周辺の歩道上ならびに一部路外の自転車駐車場の駐車実態調査を以下の要領で実施した。

a) 調査地区

調査地区は、図-6に示す名古屋駅を中心として半径約500mの範囲内の自転車等放置禁止区域にある主要街路区間で、駅の東、南、西など9地区からなる。なお、調査街区数は51街区、7箇所の定期利用駐車場である。

b) 調査日時と調査方法

調査地区が広範囲であるため、祝祭日を除いた数日で全地区を調査することとし、駐車場有料化の前（2007年9月の4日間）と後（2008年5月の3日間）の2時点で、ほぼ同じ曜日の同時刻に調査した。調査方法は、各街区の駐車場内に駐車している正規駐車台数と、駐車場の区画線を跨ぐか、はみ出て駐車している放置駐車台数を、目視でカウントし、参考として連続写真撮影を行った。

(2) 実態調査の結果

a) 駐車収用台数と駐車台数

平成20年5月までに、約9000台ある名古屋駅周辺の自転車駐車台数のうち、駐車場内に駐車していた5000台分が有料自転車駐車場として整備された。表-1に示すように、1回利用の収容数は3390台（68%）、定期利用の収容数は1610台（32%）であり、駐車総台数をみると、事前の9911台が事後4782台に半減しているが、その20%にあたる約千台は放置自転車である。

b) 利用率と放置率

自転車駐車場の利用率をみると、合計で事前が198%、事後が96%、1回利用の駐車場では事前が239%、事後が119%、定期利用の駐車場では事前が112%、事後が47%となり、1回利用駐車場は容量不足、定期利用駐車場は容量過多という結果となった。

放置率をみると、合計では事前が55%、事後が20%、1回利用駐車場では事前が58%、事後が20%、定期利用駐車場では事前が43%、事後が21%となり、事後において1回利用、定期利用の両駐車場において自転車の放置が減少したことがわかる。

c) 地区別の利用率と放置率

図-7から、地区別の利用状況をみると、1回利用では、名古屋駅東のE8-11地区にある県道名古屋津島線の南の街区において事後の利用率が323%、放置率が52%と異常に高い。次いで、道路線の北E3-7、名古屋駅西の地区A1-5、名古屋駅東のG地区、名古屋駅南の地区C1-2にあるなど、名古屋駅からの距離が100~200mの地区において利用率、放置率が高くなっている。また、定期利用地区に関しても同様の傾向がみられた。

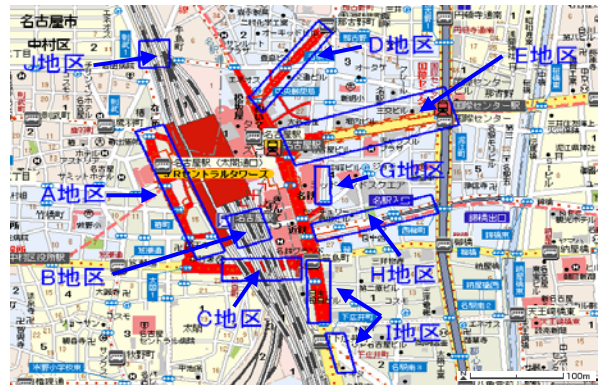


図-6 名古屋駅自転車駐車実態調査の地区

表-1 実態調査による駐車場の利用率、放置率

地区・種類	収容台数	駐車総台数		利用率		放置率		事前対事後比
		事前	事後	事前	事後	事前	事後	
駅東・南	1,925	4,354	2,369	226	123	62	21	54
駅西	1,344	3,572	1,605	266	119	50	19	45
国連C	121	179	46	148	38	100	7	26
1日利用	3,390	8,105	4,020	239	119	58	20	50
定期利用	1,610	1,806	762	112	47	43	21	42
合 計	5,000	9,911	4,782	198	96	55	20	48

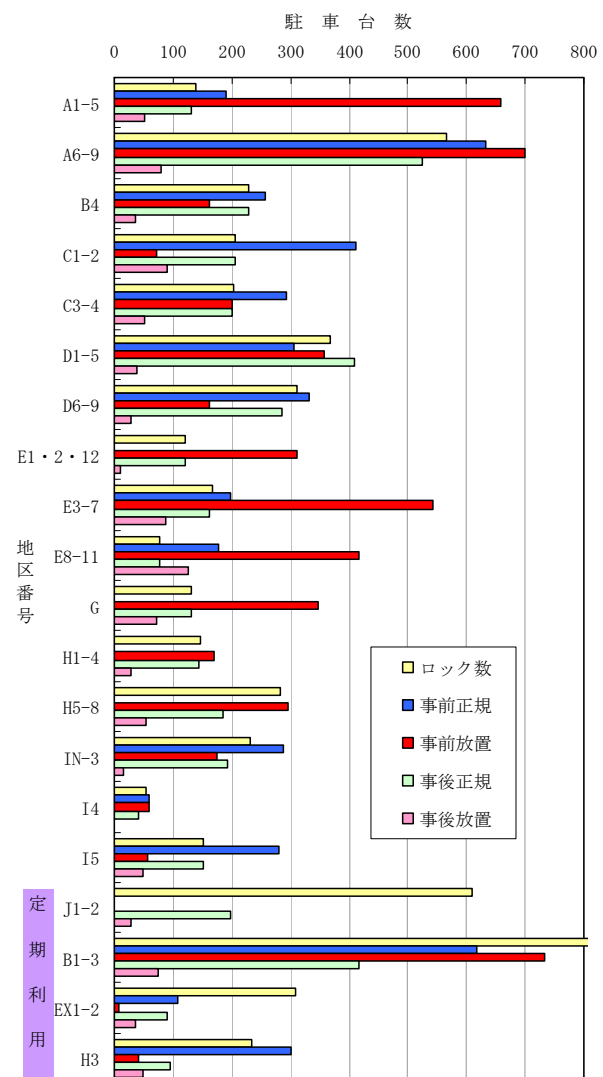


図-7 地区別・事前事後別の駐車台数

4. 放置自転車の撤去、引取に關して

前章でみたように、名古屋駅周辺の駐車実態調査より、調査範囲内に事後で約千台の放置自転車が有り、駅により近い地区において放置が多いことが確認された。今回の調査範囲に入っていない裏道などの駐車実態に關しては不明であるが、駅近傍での収容台数には限りがあり、裏道に相当数の放置台数があると推測される。

このとき、放置自転車の撤去をいかに徹底することが課題となる。駅直近における自転車利用の自肅を促すためには、放置禁止区域における撤去をどのように実施しているかを明示し、市民に理解を得ることが必要となる。

表－2は、平成18年度夏期における名古屋市中村区の放置自転車撤去の結果を示したものであり、名古屋駅周辺では、1日平均160台、1月平均600台弱（503+164/2）の撤去台数があり、年間にすると7千台の撤去台数と推計される。ここで、瞬間的な放置台数を3千台とした時、その日に撤去される確率は5%であり、この確率が高くなれば、自転車放置行動に抑制がかかると思われる。

また、千葉市の外部監査資料⁸⁾によれば、政令指定都市における撤去放置自転車の引取率の平均は43%であり、名古屋市は他都市に比べ低い27%となっている。引取率が低いということは、自転車の絶対的な必要度が低い利用者が多いことを示す、あるいは、安価な自転車の放置が繰り返されている結果と解釈することができよう。

したがって、今後、撤去作業の人員、車両台数、保管場所等の撤去方法、ならびに撤去された放置自転車の引取方法を根本的に見直し、市民の理解が得られる科学的で経済的な撤去、引取方法を再検討する必要がある。

5. まとめと課題

本研究の結果をまとめると、以下のようである。

- ① 名古屋市における有料自転車駐車場の整備において、地下駐車場の利用率が低く、周辺での放置率が高い。
 - ② 名古屋駅周辺の歩道上自転車駐車場の利用率をみると、1回利用は100%以上、定期利用は50%以下であり、駅から200m以内の範囲での放置率が高い。
 - ③ 放置自転車の撤去、引取りなどの管理運営について、自転車利用者に理解が得られる改善策が望まれる。
- また、今後の検討課題を示すと、以下のようである。
- ① 事前事後の駐車実態調査において、放置禁止区域の拡大を考慮した調査地区の設定をすべきであった。今後、裏道を含めた駐車実態調査を実施したい。
 - ② 有料自転車駐車場の利用者ならびに歩道通行の歩行者、沿道に立地する企業、店舗に対する聞き取り調査を実施し、問題点を把握したい。
 - ③ 上記の追加的な調査による詳細なデータ分析から、

表－2 中村区放置自転車撤去作業の結果

(平成18年度夏期、参考文献 7) のデータを編集)

月	実施 日数	延実施 日数	名古屋 駅	名古屋 駅 その他	その他	中村区計
7	10	13	392		392	784
8	13	18	427	372	276	1,192
9	12	25	689	120	784	1,593
3ヶ月	35	56	1,508	492	1,452	3,569
日平均		1.6	101	123	91	102
月平均	12	19	503	164	484	1,190
年推計	140	224	6,032	1,968	5,808	14,276

地区の特性に応じたきめの細かい自転車駐車利用サービスの提供についての改善案を提示したい。

参考文献

- 1) 内閣府：駅周辺における放置自転車等の実態調査の集計結果，昭和52年度～平成17年度隔年。
- 2) 名古屋市緑政土木局：自転車等駐車対策の概要，平成17年～平成19年。
- 3) 名古屋市緑政土木局自転車駐車対策室：自転車等駐車状況調査，平成16年度～平成19年度。
- 4) 名古屋市緑政土木局：平成18年度自転車等駐車状況調査について，名古屋市自転車等駐車対策協議会。
- 5) 財) 全日本交通安全協会，財) 交通事故総合分析センター：交通統計，昭和55年～平成18年版。
- 6) 財) 自転車産業振興協会：自転車統計要覧，2007。
- 7) 名古屋市包括外部監査人：平成19年度包括外部監査の結果報告書，緑政土木局の財務事務の執行及び(財) 名古屋市建設事業サービス財団の出納その他の事務の執行について，第4章，pp. 309 -331，2008。
- 8) 千葉市包括外部監査人：千葉市包括外部監査の結果報告書（平成18年度），自転車駐車場について，第3章，pp. 12，2007。
- 9) 松岡淳他：福岡市天神地区の歩道上駐輪施設の利用特性とその課題，土木計画学研究・講演集，Vol. 32，2005。
- 10) 井上信昭他：福岡市天神地区の放置自転車対策としての歩道上駐輪施設に関する分析，土木計画学研究・講演集，Vol. 36，2007。
- 11) 山田翔・浅野光行：駅周辺における歩道上の空間を利用した自転車の駐輪区画設置に関する一考察，土木計画学研究・講演集，Vol. 34，2006。
- 12) 飯田 克弘・石塚 裕子：住民参加型自転車対策の効果と課題に関する考察一大阪市北区天神橋地区を事例に一，土木計画学研究・講演集，Vol. 37，2008。
- 13) 和田章仁：都市における道路上駐輪施設の設置実態，土木計画学研究・講演集，Vol. 28，2003。
- 14) 元田良孝他：わが国の自転車交通の計画面に関する一考察，土木計画学研究・講演集，Vol. 37，2008。